

開かれた国有林と流域林業の活性化を目指す活動報告

東濃森林管理署中津川事務所
流域管理調整官 高橋 久義

1. 課題を取り上げた背景

近年、森林に対する国民の要請は国土の保全、水源涵養等はもとより、地球温暖化防止、生物多様性の保全等の環境問題など多様化、高度化しています。また、国有林においても、地域に開かれた名実共に「国民の森林」の実践活動が重要です。

このため、木曽川流域において、国有林に対する地域のニーズの的確な把握と流域林業の活性化への先導的かつ積極的な取組みに努め、民有林・国有林が森林の多様な機能を持続的に発揮できる健全な森林整備を目指すため、関係機関等と連携した流域管理システムの推進、林業体験等の実施、小学校へのアンケート調査・森林教室の実施等に努めたので、その活動について報告します。

2. 業務の経過

(1) 関係機関との連携

- ① 木曽川流域森林・林業活性化センター施業研修会（岩村国有林）
多面的機能を発揮する森林の間伐施業研修会を平成6年度同センター設立以来、初めてフィードルの提供を行い、間伐と造材方法及び複層林等についての実践の研修を実施しています。
- ② 木材利用拡大要請行動への参加（木曽川流域活性化センター主催）
木の日（10月8日）を前にパンフレットと木製ハガキを市民に配布し、木の良さをPRしています。（配布1000枚）
- ③ 国土交通省の砂防教室と治山教室の同時実施（2回）
同省の小学生を対象とした土砂災害の砂防教室に続き、上流の山崩れ災害の治山森林教室の要請があり、プランターの中へ土を入れ、はげ山と森林のある山の模型で「山崩れ災害」と森林の「緑のダム」の働き等を実体験を通して理解を図りました。
- ④ 県警ヘリコプターによる恵那山系山岳状況視察
防災の日（9月1日）を前に、県警ヘリコプターによる恵那山系の山岳状況の点検に同乗の要請があり、国有林の崩壊状況を説明しました。この日、中津川市長外関係者約20名が視察しています。

(2) 林業体験

- ① シティ・フォレスター植樹事業の実施（分局主催）
管内の小里国有林で下流域の同隊員がヒノキとヤマザクラの植付けを行いました。分局とともに実施したものです。

- ② 国土交通省職員（ダム管理）（表-1）

を対象とした森林施業研修と間伐体験の実施

同省の要請により、岩村国有林において、林内の自然観察と複層林施業を視察後、間伐体験を行いました。「地域に親しまれるダム」として水源地域の森林整備の重要性を実感を持って認識を図りました。

(3) 小学生を対象とした取組み

- ① アンケート調査の実施
アンケート対象校は（表-1）のとおりです。

この目的は近年急速に変わりつつある自然環境の変化に伴い、児童の森林等に関する認識（意）識を調査しています。

アンケート調査

【目的】自然環境の変化に伴う「森林」に関する認識の調査

【調査項目】

- 登山回数／年
- 林業体験
- 森林の温暖化防止
- 国有林
- 登山した時の感じ
- 今後登りたい山
- 森林の働き
- 森林を育てる作業は
- 保安林とは
- 木の家かコンクリートの家に住むか

対象校児童数

● 街	中津川市 南小学校	96名
● 中間	岩村町 岩邑小学校	50名
● 山村	上矢作町 上矢作小学校	36名
計		182名

そのうち、①登山回数/年・②林業体験・③森林の温暖化防止・④国有林の知名度について、調査結果を報告します。

なお、街＝中津川南小、中間＝岩邑小、山村＝上矢作小としました。

ア 登山回数/年について

山に登ったことがない子は1/3強（35%）います。（図-1）街の南小は6割が登らず、山村の上矢作小は登らない子いない。著名な山（名峰）と近くの山（森林を含む）に登った子に別れたようです。中間の岩邑小は1/3が近くの山に登ったと答えています。（図-2）また、著名な山（名峰）に登った子は、街の南小に多いことが分かりました。

イ 森林ふれあい体験について

行きたい子は全体で36%います。（図-3）希望する子は街に、しない子は山村に多くいます。なお、もう少し大きくなってから体験したい30%を含めると2/3（66%）が希望しています。

その理由は、夢があり楽しそうだと1/2（48%）が答えています。（図-4）

図-1

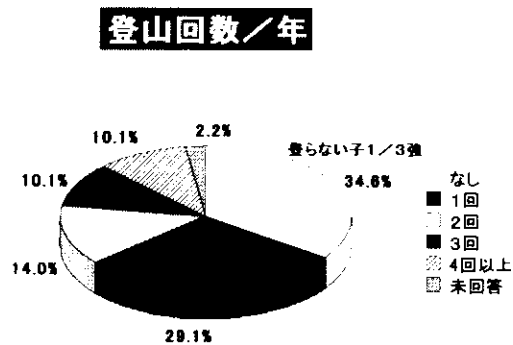


図-2

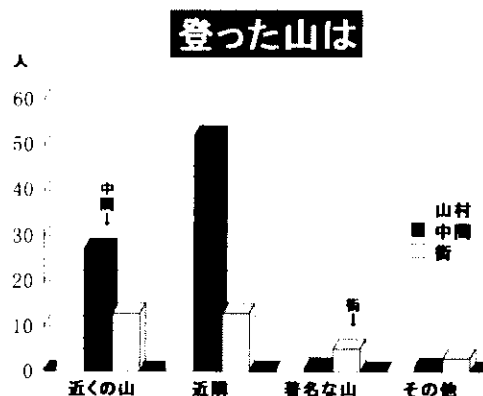


図-3

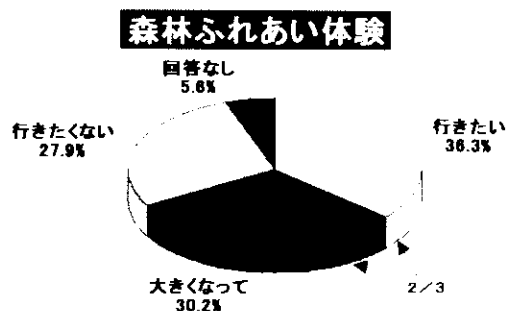
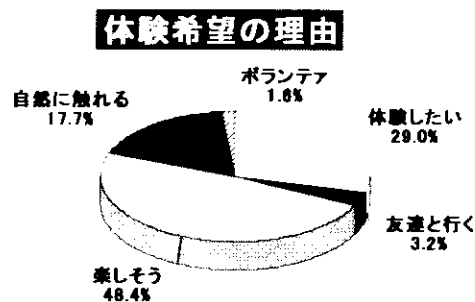


図-4

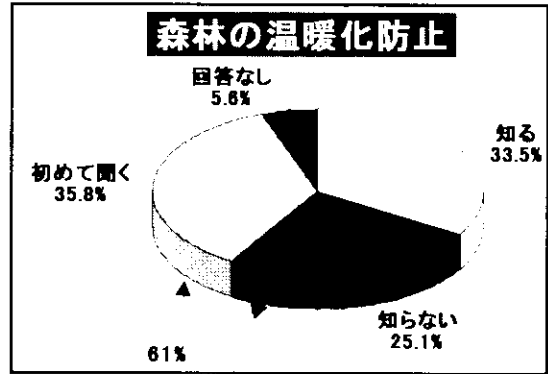


ウ 森林の温暖化防止について（図－５）

全体の１／３（３４％）が知っています。初めて聞く３６％と知らない２５％を併せて６１％が森林は炭酸ガスの吸収・固定を行い、地球の温暖化防止に役立つという関係まで理解していません。

なお、光合成の作用は６割以上知っていると考えています。

図－５



エ 国有林を知っていますか（図－６）

知っているのは半分以上の４１％です。近くに岩村（城山）国有林を控える、中間の岩邑小は７割以上が知っています。街の南小は７割知らないと答えています。

なお、この小学校に隣接して中津川事務所があります。

図－６



② 森林教室の実施（２回）

いずれも「恵那豪雨災害」のあとの森林教室で、中津川市阿木小３年生と上矢作町の上矢作小５年生に「森林の働きと治山事業」について一緒に勉強し、児童自ら丸太を手鋸で切り、「鉛筆立て」を作成しました。それぞれ郷土学習の一環として行い、質問も多く、上矢作小の児童は災害に直面して３ヶ月を過ぎていましたが当時を思い出し「怖かった」「避難した」と語ってくれました。

（４）その他

① 市町村議員団研修会での国有林林政の講演の実施（２回）

森林・林業の現状や国有林の林政の方向等について講演要請があり、恵那中南部市町村正副議長会と瑞浪市議会の全員協議会の中で当所長が講演を実施し、公益的機能重視への森林整備の方向の転換等抜本改革の推進について、説明したところ地域における林業の低迷のことの外、連携を図って、流域の特性を考えた森林・林業の活性化を図る必要性を強く話されています。

３．結 果

今回、いろいろなイベント活動を実施する中から、約１３００人余の方々と直接にふれあい理解を深めてきたところ、つぎのような結果を得ることができました。

（１）関係機関との連携

フィールド提供により地域の林業関係者等に国有林の施業ＰＲや民有林と国有林の交流が図れ、また、市民へのパンフ配布により、木のぬくもりをＰＲしています。

（２）林業体験

山造りへの直接参加により森林の重要性和森林整備の必要性の認識と理解が得られると共に、関連機関等との有機的つながりの一端となっています。

（３）小学生を対象とした取り組み

① アンケート調査

調査の結果、児童の森林・林業についての認識状況が理解でき、今後の学習（森林教室等）への活用が出来ます。

② 森林教室

児童の聞く、見る、話す及び体験により森林の大切さと山を治める重要性を理解してもらっています。

（４）市町村議員団との国有林林政の講演会

林業の現状や国有林の施業等を説明する中で、民有林・国有林が一体となり、流域の林業を活性化していく重要性が再認識されています。

以上のような結果を踏まえて、検討を重ねていた最中の１０月１１日に、林政審議会は「新たな林政の展開方向」をまとめ、農林水産大臣に「報告」しました。その課題の中の国有林野事業の抜本改革の推進の中で流域の実態を考えながら、民有林と国有林が一体となって地域の森林整備や林業・木材産業の振興を図るため、「流域管理システムの下」で連携を図っていく必要があると提言されています。

このようなことから、この活動は、今後更に重要な業務として位置づけられ、積極的な取り組みが必要となりますが流域管理のイベント活動の地域の受け入れは、十分といえず、その体制も確立されていません。

４．考 察

そのため、更に検討を深め「この活動のあり方と課題の対応策」として下記のようにまとめます。

各種のイベント実施後は（１）反省点等を取りまとめ①次回に活かす必要がある共に関係者に対し

②積極的な取組みを展開していく必要があります。

また、流域の小学生等へは（２）アンケート調査結果を活かし①森林の多様な働きと体験を通じて「ふれあい」の中から学んでもらう②対話形式の森林教室等の積極的な実施に努める必要があります。

そのため、地域のニーズに応える（３）体制づくりとして①自己研鑽はもちろん②職場内研修やマニュアルの作成等により職員のレベルアップを図ることが重要であります。

今後これらの取組みを強化する中で、国有林の使命である「国民の森林」として、流域の各市町村、流域活性化センター等との情報交換や連携を図りながら流域の特性に応じた、森林・林業の活性化となるよう努めて参りたいと考えます。